

(別紙)

成果の説明書

(氏名)石井清輝	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①現代の都市においては、人々の間での共同性の衰退が言われている。このような状況の中で、人々の自由意志によりながら、どのように共同性を生み出すことが出来るのか、本年度は昨年度に引き続き都市祭礼（手作り縁日）を対象に調査を実施し、科学研究費補助金の成果報告として報告書を作成した。結果として、現代都市に生きる人々の生活や意識に即した自由な参加形態を確保し、祭礼のみならず日常的な交流の拠点も確保することで、共同性が形成可能となることが明らかとなった（『都市環境における生活公共性に関する比較社会学的研究 科学研究費補助金 基盤研究 A 20243030 研究成果報告書』代表者・名古屋大学教授田中重好 「現代都市におけるボランティアな活動と『共同性』：手作り縁日を事例とした考察」）。</p> <p>②現代都市における人々の共同性を生み出す重要な契機として、住民運動、まちづくり運動があげられる。しかし、これら運動への社会学的なアプローチは必ずしも明確ではない。従って、本年度はこれら運動への社会学的なアプローチについて学説史的な検討を進めた。具体的には、70年代の住民運動・コミュニティ形成論、80年代の新しい社会運動・ネットワーク論、90年代以後のボランティア・NPO論をそれぞれ検討し、組織論としての研究は蓄積されたが、事例を総合的に捉える視座及び地域性に対する視座が希薄化していったことが明らかになった。そのため、双方の視点を組み込んだ分析枠組みの方向性を検討すると共に、このような視点から日本、台湾の街並み保存活動に関する実態調査を進めた。</p> <p>③東京都台東区の谷中地区、文京区の根津、千駄木地区において、所属ゼミ学生と観光・まちづくりに関する調査実習を実施した。観光客、商店主等に対する調査結果を踏まえ、報告書の原稿作成の指導を進めた。</p> <p>④次年度以後、①②で得られた研究成果について、①については学会報告を、②については、自身の科学研究費補助金の成果報告として、論文作成を行う予定である。③については、次年度前半に、学生の演習成果報告として報告書を取りまとめる予定である。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	